

公益財団法人 Uビジョン研究所

第9期 2024度 事業報告書

～2024年4月1日から2025年3月31日まで～

1 事業の成果

2024年度は、新型コロナウイルス感染症が2023年5月に感染症法第5類に移行したとはいえ、高齢者施設ではクラスターの発生とインフルエンザ、ノロウイルスなど様々な感染症が同時発生するなどの状況が続きました。

そのような状況下で最も影響を受けたのが講師派遣事業でした。講師派遣事業がUビジョン研究所の主な財源となっている現状を見直していくことが求められています。

決算は851,301円の赤字となりました。

順守すべき公益三基準はすべて満たすことができました。

賛助会員は、法人賛助会員12法人（前年度10法人）、個人賛助会員39人（前年度38人）でした。会員においては未納金があり、退会の連絡もないまま継続状態になっている法人が1法人、入会した時期が3月で未納扱いとなっている法人があります。また、個人会員においては、未納者12人で、2年経過すると退会となりますが、その数は6人でした。

寄附金は、1,067,000円（前年度2,436,370円で1,369,370円減少）でした。大口の寄附者はいませんでした。定期的・継続的にご寄附して下さる方々がおられ、Uビジョン研究所の事業継続のために大きな支援となっていること、また、公益法人としての社会貢献の役割を果たすことに役立ちました。

心より感謝するとともに深くお礼申し上げます。

認証事業は、認証施設5施設のすべてが「抜き打ち調査」の対象となり、予定どおり実施しました。

施設評価事業は、40%割引キャンペーンなど実施しましたが、昨年度同様、1件も反応はありませんでした。

PR方法としては、ホームページやSNSへのアップ、施設に伺う際にチラシを渡すなどでした。さらに、虐待が発生した法人へ情報提供を行いました。それにも反応はありませんでした。

【第1号議案】

高齢者生活施設に対して、第三者評価を受審する意義と役割について、自治体を含めて促進する必要があるのではないかと考えています。

特に、社会福祉法人は介護保険施設であり、法律の順守が社会的役割となっていますが、現在、第三者評価の受審は任意であり、義務ではありません。国が推進体制を作り実施している福祉サービス第三者評価事業においては、2006年度からスタートしていますが、2025年2月に公表された受審率は4.44%（令和5年度）で、過去5年間の平均でも実施率は5.4%に過ぎません。その中で最も受審率が高かったのは、東京都で67.6%（東京都は60万円の助成がある）、次は神奈川県で5.7%となっており極端に低くなっています。

社会福祉法人が運営する高齢者施設は経済状態に関わらず入居できるという点で、多くの市民にとって重要な介護施設です。

第三者機関による認証や評価の実施は、施設を「見える化」し、市民の安心と安全が保障される要件の1つですので、国との連携を模索しながら忍耐強く頑張っていきます。

講師派遣事業の職員教育は、実施回数は52回、日数83日（前年度44回、日数69日）、前年度より増えました。

（【第1号議案資料】職員研修（講師派遣）の推移 参照）

しかしながら、以前のような伸びはありません。その要因として考えられるのは、経営の厳しさ（物価高騰や人件費の高騰、入居者の稼働率の低下傾向など。ちなみに、福祉医療機構によると、2024年度の特養ホームの約31.9%が減益、増加が22.5%、横ばいが45.6%となっています。）

人材確保の厳しさは、社会的課題となっています。外国人職員の確保、雇用に関わる費用が増加していることもこれまでにない負担になり、さらに、外国人職員の指導に時間と労力が必要とされている現状において、研修のために一同に職員を集めて行う対面での研修が厳しくなっている要因の一つになっています。

現実、Uビジョン研究所では、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが発生しクラスターになったことで、研修を予定していた法人2か所（研修4回分）のキャンセルになりました。延期して日程を確保することが厳しくなっています。

一方で、オンライン研修を企画する会社から、講師依頼が2件ありました。Uビジョン研究所が、コンプライアンスの順守を重要視していること、利用者支援に関する現場との調査研究の実績が評価されました。

市民セミナーの講師派遣では、「60歳から考える老後の人生設計～人生100年時

【第1号議案】

代をより良く生き、より良い最期を迎えるために～」を3回実施しました。
3回とも認証施設が主催となりました。

出版物は、2024年7月に「この一冊でわかる特別養護老人ホームを選ぶチェックポイント～改訂版～」を発行し、7月からAmazonで販売となりました。

売り上げは、Amazonで17冊＝1,439円、Uビジョン研究所直接販売で、旧版21冊、改訂版85冊＝106冊で金額は97,200円、合計123冊で98,639円でした。

広告宣伝（PR）に関して、2023年9月にホームページの更新を依頼した会社（株式会社AIコミュニケーション）は、補助金が出るとの理由で契約（費用200万円の内事業者負担は50万円）しましたが、納品の大幅な遅れと、完成したコンテンツがUビジョン研究所の意向を反映しておらず、見直しのお願いをするたびに課金される仕組みになっていることが判明しました。

そこで、担当者（2人）にUビジョン研究所に来てもらい納得できない理由を説明しましたが、会社の方針とのことで対応してもらえませんでした。そのような理由により、制作者を療育コミュニティ開発機構に変更しました。

現在は、更新や相談にもスムーズに対応して頂いている状況です。

SNSの発信は定期的・継続的に月に約3回程度掲載して情報提供してきました。Uビジョン研究所の認知度が少し広がっていると感じています。

（療育コミュニティ開発機構の報告では、2025年3月のアクセス数は440回で1日平均約15回：カウントができるようにしたのが2月下旬から）

評価者勉強会の開催

評価者は実働者6名（前年度と変更なし）です。評価者勉強会は、最低1年に1回（昨年度は12回開催：報告書作成）開催しています。

2024年度は11月21日にはZOOMによる研修を行いました。研修内容は、第9回介護報酬の改定内容と特養ホームの現状について、パワーポイントで説明しました。その後、意見交換を行いました。

事務局

事務局体制：2024年4月～12月まで非常勤週4回1名（主に経理担当）、非常勤週3回1名、非常勤1名（理事）、2024年12月からは会計の業務委託契約を（株）まほろばと行いました。

残業ゼロ、有給消化率100%、非常勤夏休み特別休暇3日間、年末年始休暇12月25日～1月5日

【第1号議案】

総括

2022年度（第7期）は▲4,194,823円、2023年度（第8期）は▲403,851円、2024年度（第9期）は▲851,301円で、3年連続赤字の合計が▲5,449,975円となりました。

2 事業の実施に関する事項

公益財団法人に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	事業費の額 (円)
寄附金	一般寄附金		1,067,000
賛助会費	個人賛助会費 法人賛助会費	39名（うち未納者7名） 12法人（うち未納者4法人）	計970,000
認証事業		抜き打ち調査5か所（風の村、みなみ風、 ケアハウス中山ちどり、ケアホーム中山 ちどり、龍生園）	2,476,650
講師派遣事業	職員教育事業 単発研修講師 市民セミナー	風の村特養ホーム八街、サザン小川、ほ のぼの西尾・篠木、いきいき福祉会、中 山ちどり、みなみ風、カメラア会 (株)日本医療企画 2件 風の村、中山ちどり、みなみ風	5,927,900
出版事業		1.「この一冊でわかる特別養護老人ホ ームを選ぶチェックポイント」旧版・改 訂版含む	98,200

以上